小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 18

2016 年 6 月 7 日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)
TEL: 042－346－5639
住所:〒187-8570
東京都小平市小川町1－830

小平西地区・地域ネットワークの一員として

午頭潤子（ごとう　じゅんこ）

白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科

小平西地区・地域ネットワークが発足され５年目。この間多方面より活動や交流、連携のご様子を伺う機会があり、地域の皆さま方の明るい声が日本の古き良き時代を感じさせてくれていました。

私は白梅学園高等学校・短期大学の卒業生で、この地には愛着があり、鷹の台の駅を降り野火止用水を歩いていると「帰ってきた」と思います。

白梅短期大学を卒業後は、介護福祉・社会福祉の現場で実践をさせて頂いて参りました。そこで「介護職ほど楽しくて素晴らしい仕事はない」と身をもって感じました。そして、人と人、地域住民、民生委員さん、保健医療福祉の専門職等との連携について経験を積ませて頂き、地域ネットワークの重要性、必要性を実感して参りました。

本年３月に関谷榮子先生が定年で退官され、後任として白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科の教員に着任いたしました。と同時に、小平西地区・地域ネットワークの仲間に入れて頂き第二ブロックの担当をさせて頂く事になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今後は地域で社会で活躍できる介護福祉士・社会福祉士の養成を行うと共に、この小平西地区の地域での活動に精進して参る所存でございます。

小平西地区・地域ネットワークの皆さまのお力添えを頂戴できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

西地区ネットワークって何？
2012 年 3 月 17 日に白梅学園大学関係者が様々なＮＰＯ、ボランテイア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

2015年第4（通算20）回　地域懇談会の報告

テーマ：「パンのレシピが人をつなぐ－自分の居場所・みんなの居場所へと」

森山千賀子

第20回地域懇談会は、2016年3月12日に白梅学園大学のＪ14 講義室で開催されました。今回の前半の企画では、豊島区池袋でホームレス（路上生活者）支援の団体を通して、自らが焼いたパンを配る活動を行っている「池袋あさやけベーカリー」店主であり、子どもたちが安心して一人で入れる「要町あさやけ子ども食堂」の店主でもある山田和夫さんを招きしました。初めに、ＢＳフジで2016年1月に放映された山田さんのドキュメント『妻が託した、一枚のレシピ』を20分程流し、その後、進行役の森山が山田さんに質問する形でのミニ対談・講演を行いました。

おもちゃメーカーを退職後、亡くなられた妻が自宅で行っていたパン屋を引き継ぎ、その後NPO法人豊島こどもWAKUWAKUネットワークの活動の一環として、2013年3月からは、自宅を開放して（月2回夕方から）1食300円で食事を提供する「要町あさやけ子ども食堂」を続けています。調理師資格をもつ山田さんは、生活クラブ生協の店舗でアルバイトをしながら食材費の一部にあてています。4月からは、豊島区の補助が出るそうです。一枚のパンのレシピは、「皆と繋がって生きて行

きなさい」という妻のメッツセージであること、また、居心地のよい居場所とは、「人をつなぐ居場所、自分の存在があるところ」と山田さんは語られました。

後半は４つのブロックに分かれ、山田さんには第４ブロックに入っていただき、合わせて埼玉県朝霞市で子ども食堂を行いたいという参加者も交え、経験交流が行われました。

身近な地域に人と人が各々の立場でつながり、自分たちの居場所をつくろうとする温和な気概のようなものを感じる一時でした。（森山千賀子）

草の根事業育成助成第一回成果報告会

細江　卓朗

5月14日午後から府中の多摩交流センターで開催された、草の根事業育成助成第一回成果報告・交流会に渡辺代表と一緒に参加しました。

公益財団法人草の根事業育成財団は、平成22年10月1日にケアタウン小平内に設立された財団です。助成対象は、地域課題を解決するために取り組んでいる、医療・福祉分野とスポーツ分野で、平成23年度から27年度の5年間に70事業51団体に助成をされています。

コミュニティ・サロンほっとスペースさつきは、平成25年度から平成27年度の3年間助成を受けました。

今回は第一回の成果報告会で、助成を受けている団体の内 13 団体 23 名が出席し、5 団体が発表しました。さっきは 1 番目に報告。西東京の未就学児がいる家庭に地域の子育て経験者が無償で訪問する、家庭訪問型の子育て支援、「NPO 法人ワーカーズ・コレクティブちろりん村」。ＤＶの相談、啓発を行っている「こだいら DV 防止ネットワーク」、新宿の高次脳機能障害者の在宅生活実態調査「NPO 法人 VIVID」 、地域の高齢者の居場所 「NPO 法人稲城なごみの家」それぞれ興味深い内容で活発な質問と意見交換が出来ました。

財団理事の早川武彦一橋大学名誉教授、新津ふみ子日本社会事業大学専門職大学院客員教授からは、それぞれ有意義な活動をされている。依存体質にならない行政との距離感の重要性。団塊の世代が後期高齢者になる時を想定してどう対処していくか？などの講評がありました。

地域包括ケアシステムでも、地域の居場所の重要性がうたわれており、さつきの報告は皆さんに関心を持って聞いて頂いたと感じました。

白梅学園清修中学校・中高一貫部より

校長：硲茂樹

本校は、中学校の校種ですが少人数による中高一貫教育の女子校です。中学入学時から６年後の大学受験に向けた教育内容を整えるとともに、白梅学園の教育理念でありますヒューマニズムに基づく心豊かな気品のある人材の育成と開拓精神が豊かで社会の中で活躍する人材の育成を教育の柱にしています。そのため、女子校の良さと少人数指導のきめ細やかさを生かした６年間（若干途中に編入した生徒もいます）を通した教育内容で、一人一人の才能を見つけ最大限に伸ばします。

具体的に幾つかを紹介します。中学１年では週７時間の英語の授業があり、そのうちの５時間は外国人（英国）講師が担当します。また、昼休みや放課後には４名いる外国人講師と会話をしたり、学習相談をしたりするなかで英語力が身につきます。英語宿泊研修や海外研修を実施して一層力を高めます。

情報化社会に対応して、ICT 教育をいち早く進め全教室に電子ボードの配置し、生徒用ノートパソコンも取り入れました。電子ボードを普段の学習指導で活用しているとともに、生徒たちもノートパソコンで資料を作成して電子ボードを自ら操作して発表しています。

「食育」にも創設当初から取り組んでいます。「食育通信」を毎月発行し「食」に関する様々な情報を発信しています。そして、中学生は「食」の大切さや知識などを学び、高校生はテーブルマナーなど実生活にかかわる学習になります。昨年度の中学１年生は「農業女子プロジェクト」にも参加し、近隣の農家の方の協力を得て野菜の種蒔きから収穫までを体験しました。

本校には部活動がありませんが、「エリアコラボレーション」という取組があります。生徒たちには、放課後の時間を自習や特別講座への参加、「エリアコラボレーション」への参加、校外での習い事などと各自なりに有効に活用することを期待しています。「エリアコラボレーション」には、曜日を変えて自由に参加できる楽しい取り組みです。専門家の指導の下に、弦楽器、ダンス、演劇、軽音楽、英会話、茶道、鉄道模型、美術、テニスのコースがあります。

地域にある学校ですので、放課後や土曜日などを使って、ぜひ授業参観や学校見学にお越しください。

福島キッズプロジェクトに参加して

藤本楓（白梅学園大学子ども学科２年：白梅子育て広場委員長）

今年度も福島キッズプロジェクトに白梅子育て広場として参加させていただきました。3 日間にわたって行われ、1 日目・3 日目には、小平自由遊びの会の方々の主催するプレイパークでの遊びを、2 日目には、ジブリの森美術館へ行き、井の頭公園で自然観察をしました。今年度はより多くの学生が参加でき、中でも 1 年生の参加が多かったということが良かったのではないかと思います。私たちは、この 3 日間を通して様々なことを考えさせられました。大きく分けて 3 つあります。

まず 1 つ目は、福島の現状について、私たちはもっと知っていくべきではないかということです。福島には多くの自然があるにもかかわらず、5 年経った今でも、福島の子ども達は福島ではなく小平へ来て自然遊びをしている。それがどのような意味を示しているのかを、私たち学生は考えていかなければならないと感じました。そのことについて考える上でも、また、子どもたちと良い関わりをしていくためにも、福島の現状を知るべきであると思いました。

2 つ目は、子どもたちの思う楽しいことと、私たちの考える子どもたちの楽しいこととでは少し違う部分があるということです。私は、ターザンロープや大型ブランコなど、遊具での遊びが子どもたちにはとても楽しいことだと考えていました。確かに、それらの遊びも子どもたちは楽しんでいましたが、1 番人気だった遊びは穴掘りだったと聞いて、とても驚きました。大きな穴を掘ることは子どもたちにとってはなかなかできない体験だったのかもしれません。子どもたちは、作られた場所で遊ぶよりも、自分たちで自由に遊べる場の方がいいのかもしれないと感じました。自然の中で遊ぶことの大切さ、自由に遊ぶことの面白さを改めて知ることができて良かったと思います。

3 つめは、地域の方々の力です。この企画を中心で進めてくださっている方々をはじめ、2 日目の自然観察の際に案内してくださった自然観察員の皆さん、双眼鏡を貸してくださったコーワの皆さん、そして子どもたちのホームステイ先の方々など、他にもたくさんの方々がこの企画には関わっています。この企画を成り立たせるためには、このような地域の方々の協力が必要不可欠です。たくさんの大人たちが、こうして温かく子どもを迎え入れること、みんなで育てるという姿勢があるということは決して当たり前のことではなく、本当にすごいことだと思いますし、小平だけではなく、全国がそうであったらどんなにいいだろうかとも思います。このような素晴らしい地域の方々と白梅子育て広場のつながりをこれからも大切にしていきたいと思います。そして、地域の方々から愛され、地域に貢献できるような、人と人とをつなぐ窓口になるような大学であれるよう、今回学んだことを活かしながらこれからも頑張っていきたいと思います。

白梅子育て広場　10 周年記念式典

白梅学園大学　子ども学部子ども学科 2 年　上田朝美

2015 年度で白梅子育て広場は活動を開始して 10 年を迎えました。それにより学生、教員、OB・OG の三者で「白梅子育て広場　10 周年記念実行委員会」を立ち上げ、10 周年記念式典と 10 年間の活動をまとめた冊子の作成を行いました。

4 月から毎月会議を行い、どんな式典を行うのか、冊子の構成などを三者の視点から意見を集め、進めていきました。昨年度は入学したばかりの私からすれば、白梅子育て広場を経験した卒業生の先輩方や、白梅子育て広場発足当初から携わっている先生方の考えや意見やお話を聞くことができる貴重な場となりました。

冊子を作るにあたり、在学生、教職員、地域、OB・OG を対象にそれぞれアンケートを実施しました。アンケート結果を見てみると、普段あまり聞く機会のない白梅子育て広場に対する「声」を聞くことができました。特に「地域」のアンケート結果からは、学生にどんなことを求めているのかがよく分かり、10 年間の活動を振り返ると同時に今後の活動に関して考える良い機会となりました。

2016 年 3 月 27 日、「白梅子育て広場　10 周年記念式典」が行われました。80 名ほどの方々に出席していただき、白梅子育て広場に関わる方がこんなにもいるのだと改めて認識し、今まで積み重ねてきた活動が見えるようでした。

第一部では各アンケート結果をもとに白梅子育て広場の 10 年間について、白梅子育て広場を担当する 4 名の先生方によるパネルディスカッションを行いました。学生の活動を一番近くで支えてくださる先生方の白梅子育て広場に関するお話を聞くことはあまりないため、貴重な機会でした。第二部では祝賀会と称し、参加していただいた方々の交流会を行いました。いくつかのテーブルに分かれ、初めはそのテーブル内での交流が主でしたが、しばらくすると移動しつつお話ししている姿が多く見られました。

今回で 10 年の節目を迎えた白梅子育て広場ですが、これからさらに力を入れて活動をしていきたいと思いますので、今後とも白梅子育て広場をよろしくお願い致します。

子どもシネマスクール「おじいちゃんの季節」の撮影に「ほっとスペースきよか」が全面的に協力！

石川貞子（民生児童委員）

ＮＰＯ法人・日本映画映像文化センターの「プロと一緒に映画を作ろう」という呼びかけで小平市内の子ども２０人が参加し、地域の多くのボランティアも協力した映画「おじいちゃんの季節」が完成しました。「きよか」も出演スタッフ・キャスト・撮影場所の提供などで全面的に協力しました。

映画は、３人の兄弟が一緒に暮らす祖父の認知症と向き合いながら、祖父の戦争体験を知り、話を聞くことによって認知症に対する理解をふかめながら成長していくという物語。市内の小学校・福祉会館などでの撮影と共に、おじいちゃんの家という設定で「ほっとスペースきよか」でもかなり多くの部分の撮影がおこなわれました。

「きよか」のメンバーも、初めての経験ということもあり、「どういうことで協力できるのか」「何をすればいいのか」など何回も打ち合わせをしたりして大賑わいという状況でした。

全部で８日間という短い期間でしたが、監督をはじめ撮影・照明・美術・音楽などのプロの制作スタッフと数日間共にして、強く感じたことは、映画作りは単なる芸術・文化の活動ではなく、多くの人間が参加しそれぞれが様々な役割を受けもって力を出し合いながら一つの作品を完成させるという共同の活動であり、それにかかわるすべての人の意志疎通がとても大事になって来るのだなということでした。また、映画作りを通じて参加した子供たち、エキストラとして参加した「きよか」の人たち、映画作りのプロの人たち、地域の人たちをはじめ多様な職種・異年齢の人たちとの世代間交流の実践の場の一つになったのではないかと思っています。

映画「おじいちゃんの季節」（４７分）もぜひご覧になってください。

私たちの地域にも「考える会」が発足
一日も早く　コミタクの運行を！

南西地域にコミバス・コミタクを「走らせる会」事務局　山本邦子

小平南西部地域（Ｂ地区）の不便さを解消するため「コミュニティタクシー」を走らせてほしいという声が上がって８年。すでに、Ａ地区（栄町ルート）、Ｃ地区（大沼ルート）、Ｄ地区（鈴木町ルート）は運行されています。もう待てないと、南西部地域に住む私たちは「走らせる会」を２０１４年８月３日に発足させ、会の方針として、「市主催のコミュニティタクシーを考える会の発足を一日も早く」の要求を掲げ、署名集めと「走らせる会」の会員を増やそうと活動を続けてきました。

現在は６０人の「走らせる会」の会員の協力と８人の世話人の努力で、毎月１回の「世話人会議」、ニュースの発行、配布など努力してきました。“「考える会」を発足させて！”の声を、署名にして集め約 1000 筆を市に届けました。この間、市の公共交通課にも足を運び、“早く走らせくれないと私は死んでしまう”などの切実な市民の声を反映してきました。

「走らせる会」が発足して、１年と９ヶ月がたった今日、市が主催する小平南西部地域（Ｂ地区）にコミュニティタクシーを「考える会」を発足させ、５月３０日（月）には第１回「考える会」の会議開催の連絡が入りました。“やっと実現可能”の入口が見えてきました。

8 つの自治会をはじめ、事業者、商店会、商工会、活動団体など１７団体に会議への参加の呼びかけを市が行いました。私たち「走らせる会」も活動団体として登録され、「会」の会長を代表に送ることにしました。

実現には、まだ時間がかかりますし、１７人の各団体の代表の意見を一致させるのも大変かと思いますが、「走らせる会」の私たちは、会員を増やして「会」を存続させ、運行ルートや停留所の決定、乗降客の維持、コミュニティタクシーの宣伝普及、市民の要求や意見など市に反映していきたいと思います。

「考える会」の発足が、実現の第一歩となり

ます。これからも皆様のご協力をお願いいたします。

クラブハウスはばたき　活動紹介

（白梅学園での「西のきずな」印刷）

私たちクラブハウスはばたき（以下はばたき）と地域活動支援センターはばたき（以下地活）は、精神の病気を持った人々のリハビリテーションの場として小平市内で活動を始めて 20 年になります。アメリカで誕生した精神障がい者の地域リハビリテーションモデル『クラブハウスモデル』を実践しています。はばたきの中では、メンバー（利用者）とスタッフ（職員）が横並びの関係で話し合いを大切にし、メンバーも施設の運営に関わり活動することで、責任を持ち、自信を回復し、自分の病状も改善していくことを目標に活動しています。

利用者 M

活動の内容ですが、はばたきには、主に就労を目標にした方々が通い、将来の就労準備のため、小平市の委託で近所の公園を清掃しています。また、白梅大学さんからもこの会報に関わる仕事も頂いています。その他、施設内では昼食を作ったり、事務作業等しています。地活では、生活リズムを整えたい、友人を作りたい等幅広い利用目的を持った方々が通い、お茶を入れたり、お菓子を作ったり、

簡単な事務作業等をしています。合同では運営に関わるミーティング等をしています。

私は家以外に通う居場所が欲しくて地活に通っています。皆が私の入れたコーヒーをおいしいと言って飲んでくれたり、私のちょっとしたことを褒めてくれたりするのがとても嬉しいです。メンバーやスタッフと話すことで心身の安定につながっていると感じていま

す。メンバーとスタッフと関わったり、仕事をすることで、次のステップへ進むための良い練習になっていると思います。地域の方々にもっとはばたきを知ってもらいたいと考えています。これからもよろしくおねがいします。

「分かった会」を通して思ったこと・考えたこと

家族・地域支援学科　2年島村　俊佑（しまむら・しゅんすけ）

私が「分かった会」に参加し始めて３か月が経ちました。昨年、奈良さんからお誘いを受け今年１月から参加していますが、学ぶことが多くてとても充実しています。

私には小学校の教師になるという夢があります。教師は子どもたちに勉強を教えるのが仕事です。仮になれたとしても、教えていることに慣れていなければうまくはいかないでしょう。そういう場にお誘いをいただいたときにはとてもありがたいと思いました。

参加してみて一番気づかされたのは、子どもたちに気付いてもらうこと。答えを教えるのは簡単。しかし、その答えに導く過程を教えなければ、同じ問題に出くわしたときに身につきません。人は自分自身から気づくと不思議と、そのことが身につくものです。このことから、自分で気づくことのサポートするのが「教える」ということなのだ、と学びました。省略しますが、他にも学んだことがいっぱいありました。

まだ参加して日が経っていないので、今後気づきや学びが増えると思います。「分かった会」の子どもたちは勉強に意欲的で分からないことがあれば講師に質問してきます。講師も子どもたちに教えるために頑張っています。お互いが同じ方向をみて努力している姿は素晴らしいことであり、この活動に参加させていただいていることは貴重な時間だと思っています。ここでの経験を活かし、自分の考えや「教える」ことを学んでいきたいと考えています。

＊　　＊　　＊

「分かった会」の今

今年３月９日（木）に「３年生を送る会」を開き、７人の男女生徒がそれぞれ都・私立高に合格して巣立って行きました。40 人もの生徒・講師・来賓が参加してにぎやかに「送る会」が開かれ、「修了生」一人ひとりが感動的なスピーチ。「挫折しかけたときがあったけど、なんとかやってこれた」「高校へ入ってもがんばりたい・・・」など感極まって涙ぐみ、頬を拭う女子生徒も。

３月末から４月にかけて新しく６人が入会し、４月 28 日現在、中学生が 19 人・小学６年生７人の合計 26 人。生徒はおしゃべりの方が時間も長いようですが、20 代から 70 代までの講師陣が温かく見守り、今日も熱心に勉強に取り組んでいます。

（2016 年 4 月 28 日記、奈良勝行）

小平の歴史⑦ 小川村の寺社と小川寺の梵（ぼん）鐘

蛭田廣一氏（元小平市市史編纂課長）

もう一つお話をしておきますと、5番に小川村の寺社と小川寺の梵鐘というのがあります。白梅学園大学はこの小川寺のすぐ近くです。散歩がてらに小川寺にも行ってみてください。あそこはいろんな史跡がある場所ですが、その一つが梵鐘です。これはかなり古い時代に作られた梵鐘であるということが分かっています。貞享 3 年、1686 年に作られたものです。なんとこれは 58 人の村人の名前が刻まれていますが、施主としての村人、そして中心になってこの鐘を作ることに運動した村の組頭の人たちの名前が刻まれていて、その名前がなんと全員苗字がついているのです。

江戸時代は苗字を持つのは武士クラスです。商人と百姓は苗字がなかったという風に思い込んでいらっしゃる方もいるのですが、なかったんじゃないんです。正式には名乗れなかったのですが、私的なものである自分のお墓には苗字を書けます。ですから墓石を見てみますと苗字がかいてありますし、なによりもこの江戸当初、自分たちが寄進したお寺の鐘には苗字がきちんと全員書かれているのです。そのことを考えてみても、小川村の新田開発に当時入ってきた人たちは由緒正しいのです。どこのだれかわからない、そういう人たちが入ってきたのではなくて、どこ村出身の小川の九郎兵衛、宮寺村の仁右衛門という由緒正しい人たちが入ってきて生活していますから、ある意味治安もよかった、そういう村が簡単に開発できたわけではないという話がしたかったのです。(78:38)

開発は順調に進んだのか

①マウンダー極小期との重なり

7の開発は順調に進んだのかというところですが、小川村の開発時期はマウンダー極小期（1645～1715 年）という寒冷期だったということが分かっています。世界的な寒冷期です。1645 年から 1715 年の 70 年間は太陽の黒点が少なくなって、ヨーロッパ、特に北米大陸、その他の温暖地域においては、冬は厳しいものになり、酷寒と餓えに苦しむ年が続いたということが言われています。そしてイギリスのテムズ川やオランダの運河が凍結して、そこでスケートができた、川が渡れたということが言われています。これは本の中にも写真が掲載されているような寒冷期だったということがわかっています。そういうことはヨーロッパや緯度の高いアメリカなどの北半球だけでなく、この東京近郊日本でも同じような寒冷期だったということが分かっています。

②江戸前期の大飢饉

それと比較してみますと、日本の飢饉の状況、江戸の四大飢饉、寛永、延宝、元禄、享保のうちの2つ、延宝、元禄はこの期間に当てはまるのです。つまりこの 70 年間というのはとても寒い、そういう気候条件の良くないところで開発したものですから、作物が作っても霜枯れで枯れてしまう、あるいは雨で流されてしまう、腐ってしまう、水をかぶってしまう、雪で埋まってしまう、そういった経験を積み重ねながら、本当に苦労に苦労を重ねて、小川村の先人たちは村を拓き、歯を食いしばってこの土地を切り拓いて、これだけの村、土地を築いてきてくれたんだということがわかります。

③江戸火災と災害

それと震災だけではなくて、火災もありました。江戸火災では明暦2年から享保18年までで、なんと36回の江戸の大火というものがおこります。また災害も寛文 4（1664）年から享保 19（1734）年までで 14 回の記録があります。ですからそれほど頻繁に石灰の需要があって、青梅街道は石灰輸送で混雑しただろうということが想像できます。

その他にも小川寺と妙法寺の檀家争い、名主と百姓の争いなどがあり、開発が順調に進んだわけではないということを確認しておきたいと思います。

（文責：瀧口優）

小平市役所の組織と窓口一覧－つながりましょう

部	課（担当）	長	担当業務

1	議会事務局	*槇口克巳*	
2 企画政策部（斉藤　豊）	政策課	安部幸一郎	市制の基本方針、総合計画、行政評価
	秘書広報課	小松	市長、副市長の秘書、表彰、市報の発行
	情報政策課	橘田真	情報化推進、情報処理システムの企画・管理
	行政経営課	阿部　裕	組織、定数、行政改革の推進、公共施設マネージメント
財務担当（片桐英樹）	財政課	橋本隆寛	財政計画、予算の編成、執行管理
	財産管理課	片桐英樹	公有財産の調整、公共用地の取得・処分
3 総務部（鳥越恵子）	総務課	*後藤　仁*	庁舎管理、文書管理、法務、情報公開、個人情報保護
	契約検査課	阿部和幸	工事・物品・その他の契約・検査
	検査担当	石川順一	工事・物品その他の検査
	職員課	斉藤武史	職員の人事、研修、給与、福利厚生、健康管理
	労務人事制度担当	黒山忠成	職員団体、人事給与制度
危機管理担当（野田　悟）	危機管理課	金子一道	防災、災害対策、消防、国民保護
	地域安全課		防犯
4 市民部（平尾達朗）	市民課	*三井慎二郎*	戸籍、住民基本台帳、印鑑登録、証明書発行、住民基本台帳カード、都営住宅、住居表示
	税務課	深谷　達	市税の賦課、税関係証明書発行
	収納課	宇野智則	市税などの収納・徴収、納税証明書発行
	市民相談課	*瀧澤文夫*	市民相談、広聴、市政資料コーナー、消費生活、交通災害共済、消費生活相談室
5 地域振興部（瀧澤清児） 理事（*遠藤毅*） 文化スポーツ担当部長兼健康・保険担当部長（*武藤眞仁*）	市民協働・男女参画推進課	篠宮智巳	市民協働の推進、市民活動団体への支援、男女平等の推進、自治会の支援、市民菜園の管理、地域センター
	産業振興課	板谷扇一郎	農業振興、商工業振興、観光街づくり
	文化スポーツ課	永田達也	文化・国際交流、文化・スポーツ施設の管理、文化財の調査・保護、平櫛田中美術館
	スポーツ振興担当	***島田秀幸***	スポーツ・レクレーション振興
6 こども家庭部（石川進司）	子育て支援課	小島淳生	子育て相談、子ども広場、子育てふれあい広場、児童館、児童に関する手当・医療費助成、学童クラブ、子ども家庭支援センター、ひとり親等の福祉資金貸付、ひとり親相談
	家庭支援担当	伊藤祐子	家庭支援
	保育課	小松耕輔	市立・私立保育園、認定こども園、私立幼稚園、認証保育所、認定家庭福祉員
	保育指導担当	武藤好子	子育て支援
7 健康福祉部（*柳瀬正明*）	生活支援課	*屋敷元信*	福祉施策の企画・整備、福祉計画の推進、民生児童委員、社会福祉法人指導検査、生活保護、助産施設、住居確保給付金

	保険担当 （武藤眞仁）	高齢者支援課	大平真一	介護保険事業計画、介護保険料の賦課・徴収、保険給付、要介護等認定、介護サービス計画、事業所指導、高齢者の相談・苦情相談、在宅介護相談、介護予防事業、在宅支援サービス、高齢者住宅、高齢クラブ
		地域包括ケア推進担当	細谷毅	地域包括ケア、地域支援事業、高齢者施策の推進
		障がい者支援課	河原順一	障がい福祉サービス、障害者手当、心身障害者医療費
		健康推進課	鶴巻好生	健（検）診、予防接種、母子保健、健康推進事業、健康相談、難病等医療費の助成の申請受け付け
		保険年金課	川上吉晴	国民健康保険、国民健康保険税の賦課、国民年金、後期高齢者医療制度
		参事	*島田義之*	
8	環境部 （岡村秀哉）	環境政策課	近藤和哉	環境施策の企画調整、地球温暖化対策、犬の登録、公害対策
		資源循環課	白倉克彦	廃棄物の発生抑制・再利用・処理
		水と緑と公園課	藤川晶雄	公園用水路の整備・維持管理、緑の保全
		下水道課	田中博晶	下水道の計画・設計・工事管理・維持管理、ふれあい下水道館
		参事	*利光良平*	
9	都市開発部 （津崎陽彦）	都市計画課	奈良　勝己	都市計画、宅地開発・地区計画・風致地区の指導
		公共交通課	*瀧澤徳一*	コミュニティバス（にじバス）、コミュニティタクシー（ぶるべー号）
		地域整備支援課	村田　潔	土地区画整理事業の支援、、市街地再開発事業の支援
	都市建設担当 （*首藤博之*）	道路課	清水克敏	市道の維持管理、認定、廃止
		公共工事担当	菊田隆幸	土木工事の設計・工事管理、公共用地等の測量
		都市計画道路担当	*真子恭徳*	都市計画道路の整備
		交通対策課	*和田明浩*	交通安全対策、放置自転車対策、自転車駐車場の整備
		施設設備課	後藤　信幸	市有建物の設計・工事監理・保全管理
10	会計管理者 （長塩三千行）	会計課		公金の出納、物品の管理
11	教育部 （有川知樹）	教育総務課	*余語　聰*	教育委員会の会議、教育委員会職員の人事、教育施設の営繕・維持管理
		学務課	坂本仲之	児童生徒の就学・転学、学校保健、小・中学校給食
	教育指導担当	指導課	*出町桜一郎（派遣）*	学習指導、生活指導、教職員の人事・研修・給与・福利厚生
	出町桜一郎（派遣）	教育施策推進担当	小林邦子	教育相談室、あゆみ教室、帰国児童生徒教室、特別支援教育の企画・立案・調整・推進
	地域学習担当 （松原悦子）	地域学習支援課	相澤良子	青少年健全育成、社会教育委員、学校支援ボランティアの推進、放課後子ども教室

	公民館	*照井幸枝*	学級・講座・講習会・講演会の開催
	図書館	湯沢瑞彦	図書の閲覧・貸出、読書相談、地域資料の収集
議会事務局	次長		
選挙管理委員会			選挙の執行管理、選挙啓発
監査事務局 （水口篤）			財務事務などの監査・検査・審査
農業委員会	産業振興課		農地利用の調整、農業経営生産等の調査・研究
固定資産評価審査委員会	税務課		固定資産の評価に対する不服の審査

＊下線部イタリックは今年度新たに担当となった方々です。

皆さん、コミュニティ・サロン（下の①～③）と「中学生勉強会」（④）に足を運んでみませんか？

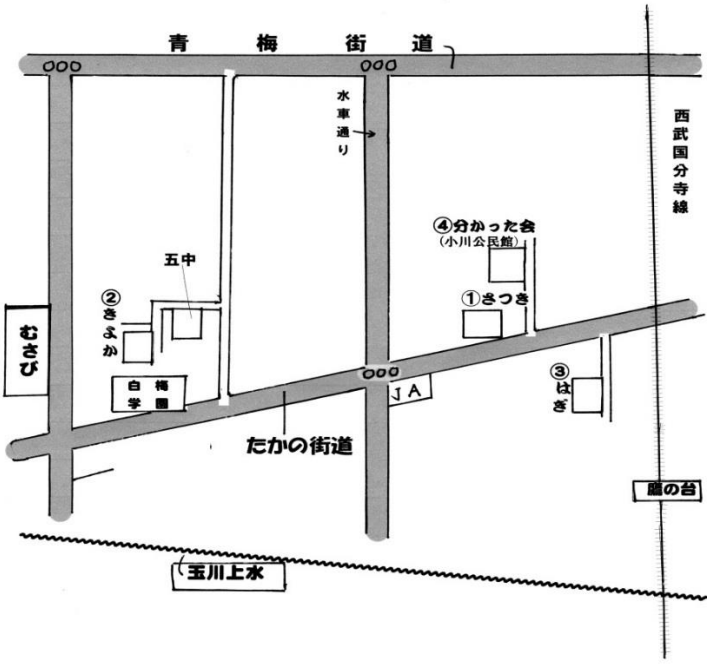
お待ちしております！　（右の地図を参照）

①　ほっとスペースさつき
毎週火曜と木曜　10:00~16:00
問合わせ：渡辺　穂積
TEL: 042-344－7412

②　ほっとスペースきよか
毎週月曜　10:00 ～15:30
問合わせ：石川　貞子
TEL:090－7732－2089

③　アットホームはぎ
毎月 7, 17, 27 日：14:00～17:00
問合わせ：萩谷　洋子: 042-342-1738

④　「分かった会」小中無料学習教室
毎週木曜日　18:00～20:30　（小川公民館）
問合わせ：奈良　勝行　（講師募集中！）
TEL:090-4435-4306



イベントの予定

7 月 2 日（土）13:30～15:30
「子育て広場・遊ぼう会」
市民公開講座「認知症とともに、よりよく生きる」
6 月 26 日（日）13～17:00
NPO ボランティアセミナー　武蔵野美術大学

西ネットの今後の予定

学内会議：6/21, 7/26, 9/6、10/11, 12/6, 1/10, 1/31, 2/28
世話人会：7/5, 9/13, 11/22, 2/14
懇談会　：9/27. 12/20, 3/11

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西　克彦	瀧口　優・ 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・早田　満 芳井正彦	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道	金田利子・草野篤子 瀧口眞央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田　誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良・長谷川・吉村

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体（者）の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当（奈良まで）お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください（奈良勝行）。

メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：18 号は今までになく記事が集まりました。ブロック担当となって 3 回目の編集になりましたが、地域との繋がりを実感するこの頃です。原稿を寄せて頂いた皆様、ありがとうございます。